

## ●環境甲子園表彰式

第21回環境甲子園の受賞授与式を2021年12月18日（土）にTKPガーデンシティプレミアム仙台西口で開催いたしました。

猪股代表の挨拶の後、江成審査員長から講評をいただき、表彰状と賞金の授与をおこないました。

今回は、優秀賞2校、審査員特別賞1校、特別奨励賞6校、奨励賞5校が表彰式に出席、10チームが会場、4チームはオンラインで参加しました。

今年度も第22回環境甲子園を開催いたします。ぜひ、環境活動をしている高校がございましたら、事務局までご連絡ください。

■応募資格 ①東北6県の高等学校生・高等専門学校生 ②個人・グループ、いずれも可

■賞および賞金 最優秀賞1点 10万円 優秀賞 2点 5万円

特別奨励賞5点 3万円 奨励賞 6点 1万円

■エントリー期間 2022年4月20日（水）～7月31日（日）

作品（成果品）応募期間 2022年6月20日（月）～8月31日（つ）※当日消印有効

■入賞発表 ホームページに公開（10月上旬頃を予定）

■表彰式 2021年12月を予定



## ●東北地区 高校生SDGsセミナー 開催報告

2022年3月28日、地域の課題探求に取組む東北地方5県9校の高校生に対して、持続可能な地域循環共生社会形成に向けた研修が行われました。今回は、コロナ禍のため、オンラインにて開催しました。当会は、環境再生保全機構から業務委託を受けて運営をサポートし、参加校の選定や高校との連絡調整、当日の運営サポート、ワークショップへの講師派遣などを行いました。

今回の研修は「2022年度スタート！4月から1年間の「SDGs活動計画」を考える」をテーマとし、情報共有、ワークショップを行いました。

高校生が自己紹介を行い、セミナーが始まりました。「気候変動」、「生物多様性」、「SDGs」、「地域循環共生兼（ローカルSDGs）」等について説明しました。

その後、「つくる責任つかう責任」を題材に海藤がワークショップを行いました。次に「2022年度スタート！新学期4月から1年間の「SDGs活動計画」を考えよう！」をテーマに話し合いを実施し、発表しました。

参加校は以下の通りです。青森県立久井農業高等学校、青森県立むつ工業高等学校、青森県立木造高等学校、岩手県立花巻農業高等学校、岩手県立遠野緑峰高等学校、秋田県立能代松陽高等学校、秋田県立大館鳳鳴高等学校、秋田県立新屋高等学校、宮城学院中学校高等学校、宮城県古川黎明高等学校、宮城県利府高等学校、山形県立米沢興譲館高等学校、山形県立山形西高等学校、福島県立福島西高等学校

### 編集後記

3年目突入のコロナ禍に異常気象そして今年の3月からロシアの一方向的なウクライナへの侵攻により極めて悲惨な状況が続いています。

新型コロナの世界的流行で死者は天文学的数字で未開のウイルスによるものです。人間の尊厳を守るため昼夜を問わずウイルスと戦い続けている医療従事者の方々がいる一方で欲望のため他国に侵攻し殺戮を繰り返す人間もいます。無差別な破壊と殺戮は残酷すぎます。

第二次世界大戦後も戦争は止めましよう国際連合ができたはず、その国連は「誰一人取り残さない世界、持続可能な世界」を目指し2030年までに取り組みましよう掲げた「SDGs」にもかかわらずどうしたことなのでしょう。メディアからのウクライナ情報には目を覆ってしまいたくなるような現状があります。「SDGs」をロシアのプーチンに伝えるのは誰の役目なのでしょう？ロシア国民すべてがウクライナ侵攻を認めているのでしょうか？逆の立場に立ち、考えを改めて欲しい事と一日も早い終結を願い祈るばかりです。

重く心痛い状況が続く日々のなかで、テレビ番組タイトルは忘れましたが「地球にやさしい生活、地球と共生する生活」を実践する若者家族が紹介されていました。彼の考えや生き方に共感するパートナーに恵まれ3歳になる息子と共に歩む生活です。出世や経済的金銭欲物欲から解放され地球にやさしい持続可能な生き方を実践している姿に心打たれ「**足るを知る**」生き方こそが平和そして地球環境保全につながりまさに「SDGs」そのものの生き方だと痛感したひと時でした。（K・Y）

発行・編集 NPO法人 環境会議所東北

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6 TEL. 022-218-0761 FAX. 022-375-7797

Email : [kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp](mailto:kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp) ホームページ : <https://www.kk-tohoku.or.jp>（環境会議所東北）

※Facebookもございますので、ご覧下さい。



## 生態系の適応能力と持続可能性

代表理事 猪股 宏（東北大学・特任教授）

2022.6  
No.37

2022年5月13日に開催の総会では、理事会からの議案はすべてご承認頂き、さらに将来への展開へのご提案もありました。ここでご報告ならびに御礼を申し上げます。

令和4年度活動計画については、これまでと同様「みちのくEMS」を中心として実施します。「みちのくEMS」については、毎年新たな事業場の申請が十数件程度あり、環境マネジメントの浸透を実感しておりますが、さらに業界での会合などでの口コミが少なくないようです。改めて、人的ネットワークの強さを認識するとともに、コロナ禍という制約からの機会減少が残念に思います。

さて、最近のセミナーで「酸素と人体の関係」の講演を聴講しました。生物にとって、酸素は生命維持のための必須物質であると認識しておりました。事実、酸素は多くの生物が物質の酸化反応によりエネルギーをつくっておりますが、一方で生物の細胞は酸素の存在により酸化され劣化（老化）が進行してまいります。この意味では酸素は毒性を有すると言えます。酸素と生命の関係を調べると、生命が誕生した太古の地球には酸素がほとんど存在しなかったわけで、その頃の生命体にとって酸素は反応性が高すぎて猛毒であったと推察されます。その後、光合成細菌（シアノバクテリア）の出現と増殖により地上の酸素濃度が増え、その酸素の反応性から高いエネルギー産生効率を利用する生命が出現したようです。その後の地球上での酸素濃度は長時間スケールで15～35%の大きな範囲で増減を繰り返し、それに伴って生物は酸素濃度の大小に対する生体防御性を備えることで多様な進化を遂げて現在に至っております。人間では酸欠になると、酸素キャリアーである赤血球を増加させるホルモンが分泌され、骨髄で増産体制がとられるということです。人体の素晴らしさと理解するとともに、大きな視野では生態系の適応能力・馴化に敬服するしかありません。

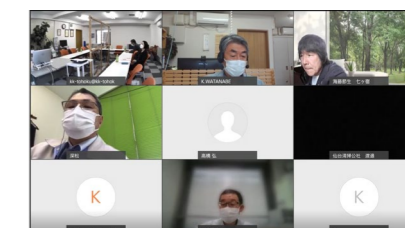
この進化の歴史に鑑みると、現在種々の環境問題が顕在化・深刻化している状況下において、生態系のメンバーである我々が地球環境変化に適応できないとなれば絶滅という結末を招くだろうことは想像に難くありません。では適応は如何に……。それには回答できても、正答は遠い将来に判断されるものかもしれませんが、回答としては、当たり前ですが自分ができる範囲で、生態系・地球環境にプラスになる行動をとることでしょう。この行動が「生態系あるいは世界的物質・エネルギー循環」にどのように影響するのか、を考えてみるのが大事なかと感じております。

思ったことを勝手に書きましたが、関係各位には是非、自分周囲での環境影響などを整理して頂き、「人類」が生態系に長く存在できる行動に参加頂きたいと思っております。

## ●第25期総会開催

第25期2022年度通常総会を、令和4年5月13日（金）に環境会議所東北会議室にて開催いたしました。猪股宏代表理事の挨拶の後、直ちに議事に入り、理事改選、就業規則変更等を報告した後、第1号議案 令和3年度（2021年度）事業報告ならびに決算報告、第2号議案 令和4年度（2021年度）事業計画案ならびに予算案について、すべて承認されました。質疑応答の後、新任の海藤理事よりご挨拶をいただきました。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、FAXでの書面議決を取り入れ、オンライン併用にて総会を開催、無事成立終了できましたが、次年度は対面で開催し、会員同士の交流も深められればよいと考えております。



総会の様子

## ●CSOラーニング生（（公財）SOMPOのインターンシップ制度）からの報告

### ◎コクヨ東北販売㈱への訪問

初めにコクヨとは文房具やオフィス家具、事務機器を製造・販売する会社です。代表的な商品には、みなさま一度は使ったことがあると思われる「Campus(キャンパス)ノート」があります。1975年から2014年の39年間の間に累計26億冊を出荷した、ロングセラー商品です。コクヨ東北販売は、東北エリアのオフィス環境の様々なサポートを行う会社です。

時代とともに生きるコクヨ。今回伺わせてもらったコクヨ東北販売（一番町オフィス）は、「ライブオフィス」として、公開されており。

今回の見学を通じて、オフィスでの新しい働き方を学びました。会社のオフィスと言っても私がイメージしていたものとは全くと言っていいほどの新しい空間でした。ビルの2箇所の階があるオフィスには、それぞれの機能別フロアとなっており、効率性を重視したワークスペースフロアと、創造的な時間、新しいものを生み出すフロアの二つが用意されています。2フロアとも工夫が凝らされており、コクヨの画期的製品により働くことをポジティブにするオフィス兼、まさに生きたショールームでした。一方で2箇所のフロアが、4Fと8Fに設けられており、移動の足が重たくなってしまふのではと感じました。他にも、音環境のスペースマネジメントや女性専用休憩室などがあり、各部署にオフィス改善委員による監査が行われているようです。

所々でWithコロナを感じましたが、個人が自由で平等なSDGsの目標という観点から見て、コクヨ東北販売㈱は理想的なオフィスでした。今後社会人になった私が働くならこんな素敵などころで働きたいと率直に思いました。



前後左右360度、体の動きに座面が追従するオフィスチェア「ing (イング)」

### ◎みやぎ生協リサイクルセンターへの訪問

みやぎ生協リサイクルセンターは2006年に開設されました。この施設は、みやぎ生協の事業所から出る廃棄物を毎日、自己回収して、分別や再資源化または廃棄物の排出抑制などを行っています。各店舗から発生する食品残渣を回収後に、エコフィード方式(食品残渣を乳酸発酵による飼料化)で液状化飼料とします。廃棄物の回収とは具体的に挙げると、古紙、ダンボール、牛乳パック、発泡スチロール、卵パック、プラスチック類などをリサイクルセンターで圧縮して出荷し、再資源化をしています。また店舗から出る野菜・果物、惣菜、寿司、日配の食品残渣を回収して液状化飼料にして出荷しています。

食品リサイクル率は90%弱、紙、発泡スチロール類は100%の回収率です。また粗大ゴミも細かく分別することで、産業廃棄物扱いで廃棄するにはお金がかかっていたものが、分別することによって売れるモノへと変わりました。手間を惜しまずに事業として組み込むことで、今までの概念が変わることもあったと感じました。

この施設のみやぎりサイクルセンターの事業としては、赤字になっています。しかし生協全体の利益としてみることで、黒字になっています。ゴミ処理の事業としての利益は難しいところがありますが、生協としての利益を上げるだけでなく、小さいところまでのこだわりが環境問題との向き合い方にもつながっていました。

<学んだこと、知ったこと>

●**食品残渣**は元々、田んぼなどへ堆肥（コンポスト）にしていた。しかし堆肥化には異臭の問題などがあり、住民が近くに住んでいるところでは行いづらかった。メタンガスとして利用することも考えていたが、メタンガスに利用するにしても、1日に2トンや3トンの量は多すぎたなど、変換できてもその量によって使えるモノや使いづらいモノもあった。他にも近くに下水処理施設がないため、川に直接流すための処理も必要であった。場所の問題とも向き合う必要があり、その地域にない施設は一市民にはどうすることもできないので、その中で問題とどのように付き合っていくか考える必要があった。

●**分別の大変さ**を目の当たりにしました。食品の廃棄や発泡スチロールなど、適切に処理するために最終的には、人が直接目で見て、細かい分別をする必要がありました。発泡スチロールは集めたら、既に分別ができていると感じていました。しかし発泡スチロールに付いているシールなどのタグは分別する必要があります。このようにしてようやく、ゴミの処理に移ることができるのです。中々難しい問題ではありますが、私達がゴミを出すときに細かいところまで分別を行えば、このような手間を省くことにつながるのです。

## ●省エネお助け隊（地域プラットフォーム構築）事業のご案内

現在、当会では経済産業省資源エネルギー庁「地域プラットフォーム構築事業」の省エネお助け隊（地域プラットフォーム）事業者として宮城県内で活動しております。今年度は福島県でも活動予定です。

この事業は、弊所が省エネへの関心が高い中小企業をリサーチ、省エネ専門家や経営専門家を派遣して取組みを後押しいたします。エネルギー診断を受診すると、宮城県・福島県・国の補助金において優遇措置が受けられます。企業における省エネの推進は、ランニングコストの削減はもちろんのこと経営体質の強化や従業員の意識向上につながる相乗効果が期待できます。

昨年は24社の支援を実施し、宮城県・国の補助金などにより、設備更新を行った企業もいます。省エネに関心がある企業さまをご存知でしたら、事務局までご相談ください。

内容	対応人数	価格（税込）
エネルギー診断	専門家1名	10,120円
エネルギー診断	専門家2名	15,400円
エネルギー相談	専門家1名1時間あたり	880円

### 尚綱学院大学 稲葉 梨沙子

初めにコクヨとは文房具やオフィス家具、事務機器を製造・販売する会社です。代表的な商品には、みなさま一度は使ったことがあると思われる「Campus(キャンパス)ノート」があります。1975年から2014年の39年間の間に累計26億冊を出荷した、ロングセラー商品です。コクヨ東北販売は、東北エリアのオフィス環境の様々なサポートを行う会社です。

時代とともに生きるコクヨ。今回伺わせてもらったコクヨ東北販売（一番町オフィス）は、「ライブオフィス」として、公開されており。

今回の見学を通じて、オフィスでの新しい働き方を学びました。会社のオフィスと言っても私がイメージしていたものとは全くと言っていいほどの新しい空間でした。ビルの2箇所の階があるオフィスには、それぞれの機能別フロアとなっており、効率性を重視したワークスペースフロアと、創造的な時間、新しいものを生み出すフロアの二つが用意されています。2フロアとも工夫が凝らされており、コクヨの画期的製品により働くことをポジティブにするオフィス兼、まさに生きたショールームでした。一方で2箇所のフロアが、4Fと8Fに設けられており、移動の足が重たくなってしまふのではと感じました。他にも、音環境のスペースマネジメントや女性専用休憩室などがあり、各部署にオフィス改善委員による監査が行われているようです。

所々でWithコロナを感じましたが、個人が自由で平等なSDGsの目標という観点から見て、コクヨ東北販売㈱は理想的なオフィスでした。今後社会人になった私が働くならこんな素敵などころで働きたいと率直に思いました。

### 宮城大学 跡部 七海



減容・圧縮された古紙やダンボール



## ●令和4年度 新任理事紹介特集 海藤節生 氏

プロフィール：NPO法人水守の郷七ヶ宿理事長。  
1980年 東北学院大学法学部卒業。様々な職業を経た後、仙台で環境保全活動に携わる。  
現在、尚綱学院大学、仙台徳州看護専門学校等で講師を務めている。

特定非営利活動法人環境会議所会員の皆様、2019年度からみやぎGPN事務局長を拝命し2年が経過しました。今年度より理事としてその任にあたることとなりました海藤節生と申します。昭和33年3月3日仙台市支倉町に生まれ東北学院大学法学部法律学科卒業後、R&Rバンド「ハウンドドッグ」のベーシストとしてCBSソニーより「嵐の金曜日」でレコードデビュー、年間150本以上のコンサートを重ね1982年日比谷の野音音楽堂2Days、翌年1983年日本のR&Rバンドで初となる武道館ワンマンコンサートを達成。これを最後に芸能界引退、その後訪問販売、喫茶店経営、トラックドライバー、鋼材卸売販売、油圧機械リース、土木会社経営に携わった後、国政選挙に関わり国会議員秘書という異例な立場も含め、様々な職域を経験し現在に至ります。多様な経歴から得た知見をベースにサステナブルという物差しで「これまで」を改め「これから」を見据え、行動しなければ変わらない！をモットーに精進して参りました。

私が環境に関心を深めたのは仙台市が市民と協働で開催した「環境フォーラムせんだい2001」に実行委員として参加し市民活動の存在を知ったことに始まります。当時、自身では何も活動を行っていなかったため、このフォーラムの企画委員に手をあげました。仙台市内で行われている様々な活動を知り、通りすがりの市民に伝えたい！そんな想いでアエル二階のアトリウムを貸し切りポスター展示を行いました。更に最終日のシンポジウムに向け、フォーラムのテーマソング「共生」を書き下ろし最後にみんなで歌いました。停止していた音楽活動が再開します。東日本大震災では被災地の想いを「Re-Birth」「Pass Away」として発表し全国でチャリティーコンサートを行い支援に充てました。公式には、全国林業グループ連絡協議会60周年記念ソング（2019）、ACCU（ユネスコ・アジア文化センター）50周年記念ソング（2021）を発表しています。

ポスターセッションの収集に際し環境会議所東北にお邪魔しました。その時「あんたも環境やっているなら循環型社会構築、まずはそこが大事」という山岡さんの言葉が強く印象に残っています。

その言葉の影響が強かったせいか、私が最初に行動を起こしたのはごみ減量リサイクル分野です。仙台青年会議所が毎年夏に主催している「仙台七夕前夜祭花火祭り」にボランティアとして参加した時のことです。説明会では、その内容に例年に準ずる分別ボックスの設置を告げられました。設置するだけでは、いろいろなゴミが混入しすべて燃えるゴミになってしまうと感じ実行委員会に進言しました。会場内にテントを張りリサイクルステーションを運営するといった内容です。当時のクリーン部会長が理解ある方でこの申し出を受け4カ所の設置を許可してもらいました。市民がそこに自らゴミを持ち込み分別に協力するという取組です。さらに会場26カ所に分別コーナーを設けごみを減らす運動を試みました。しかし、結果は惨憺たるもので再分別が朝まで続きました。しかしリサイクルステーション活動は多くの賛同を呼び、改善を繰り返します。2003年には、リサイクルステーション活動を柱に賛同者が集まって「ワンダフル仙台」という団体を設立します。仙台七夕前夜祭花火祭りに加え、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、みちのくよさこい祭り様々なイベントに企画を持ち込み24時間テレビでもこの取組みが採用されました。今ではお馴染みとなったベガルタ仙台や楽天スタジアムで行われている分別の取組みもここが原点となっています。

さて2003年は、「ESD（Education for Sustainable Development）の10年」の前段として世界7カ所でスタートしたfirst 7の年でもあります。仙台広域圏RCE（仙台、田尻地区、気仙沼）がその一つに選ばれました。事務局を務めていた仙台市「社の都の市民環境学習推進会議」に所属していた私は、このころからESD（持続可能な開発のための教育）に関わります。宮城教育大学や国連大学、教育委員会などと交流を深めながら、トリプルボトムラインである自然環境・社会・経済の調和について様々な分野の方々と交流し、学びあいました。もっとも重要と感じたテーマが自然環境と地域文化でした。2008年住み慣れた仙台を離れ宮城県刈田郡七ヶ宿町に拠点を移し、特定非営利活動法人水守の郷七ヶ宿を立ち上げます。水源地のゴミゼロエミッション、環境整備、自然体験と活動の幅はどんどん広がっていきました。翌年の2009年10月には白石・七ヶ宿地域が仙台広域圏RCEの4地域目として認定されます。

時は流れ2017年ESD推進ネットワーク全国フォーラムが東京で開催されESDがSDGs推進の軸として示されました。そして同年、県内でいち早くSDGsに関心をもち、みやぎグリーン購入ネットワークで取上げてくれたのが山岡さんです。環境の傍らにはいつも山岡さんという人がいました。みやぎグリーン購入ネットワーク事務局長拝命、さらに理事就任にあたり山岡さんの想いを引き継ぎ発展させていくことに強い意欲を感じております。

最後になりますが、会員の皆様方の益々のご発展を祈念するとともに、一日でも早く世界が平和に導かれることを強く願い 終わりとさせていただきます。

## ●SDGs出前講座（企業・一般向け）について

みやぎGPN（事務局：環境会議所東北）では、SDGsの理解を深めるためにSDGs出前講座を開催しています。東北という地域の豊かな自然環境と風土、文化を活かしそれぞれが持続的に発展していくためには、つながりを認識すること、連携することが大切です。地域企業、地域社会とともに、持ち味を生かし地域の課題解決に積極的に取り組んでいく「誰一人取り残さないみやぎ」の未来を創造していきます。講師は海藤理事が務めます。出前講座の内容、料金等の詳細につきましては、事前に事務局までお問い合わせ下さい。

### ●出前講座内容例）【SDGsワークショップ】 120分～150分

PDCAサイクルを活用しSDGsに取組むワークショップ型のセミナーです。入門編と併せて受講し、社員それぞれが出来ることから始めていくことによって企業全体の社会的責任能力が高まります。



上記QRコードは音楽活動の様子